

はるかな尾瀬

—目次—

- 02 特集 地域を変える新しい力
片品村地域おこし協力隊
- 05 ビジターセンターへ、ようこそ！
 - ①山の鼻ビジターセンター
 - ②尾瀬沼ビジターセンター
- 06 現地情報
 - ①原をわたる風だより
 - ②おこじょだより
- 08 TOPICS
- 09 尾瀬ボランティア情報
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2016.6 vol.30
(公財)尾瀬保護財団



「キスゲ咲く朝」(第20回NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト入選作品) 撮影：小野里一男さん
撮影日：平成27年7月21日

特集

地域を変える新しい力

片品村地域おこし協力隊

(片品村地域おこし協力隊・本間優美)

地域おこし協力隊とは？

地域おこし協力隊は、2009年から総務省が始めた「地方への新しい人の流れを作る」ための制度です。2015年度は全国で約2600名が活躍しています。

「都会を離れて地方で生活したい」「地域社会に貢献したい」「人とのつながりを大切にして生きていきたい」「自分の手で作物を育ててみたい」・・・今、都市に住む人たちがさまざまな理由で自然環境や歴史、文化などに恵まれた「地方」に注目しています。

協力隊は、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、その定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を図っていくための制度です。2014年度に実施された調査によれば、任期終了後6割の隊員は引き続き同じ地域に定住しており、そのうちの2割が起業しています(総務省ホームページより)。



▲ 片品村地域おこし協力隊のみなさん

2015年より、群馬県側の尾瀬の玄関口である片品村では6名、福島県側の桧枝岐村では2名の若者が地域おこし協力隊として活動しています。今回は片品村地域おこし協力隊の取り組みについてご紹介します。

尾瀬のシカ問題

全国的に問題になっているシカによる森林や農作物への被害。群馬県でも「尾瀬シカ対策」として、片品村猟友会と連携し数年前から村内でのシカの駆除を行っています。東京から地域おこし協力隊員として片品に移住し、銃猟免許を持ついわゆる新米「狩りガール」である私も、今年度から駆除活動に参加するため県の研修を受講しました。

シカを害獣として駆除することについては様々な意見がありますが、気候変動や人と野生動物の関わり方の変化、長く継続されたメス鹿の保護政策、高齢化による猟師の減少や里山機能の低下など、生態系のバランスが崩れるほどにシカが増えてしまったことには人為的な影響が少なからずあると考えられています。環境省と農水省は「二ホンシカ、イノシシの個体数を平成35年度までに半減」させるという目標を設定し、その方針に合わせて鳥獣保護法も昨年改正されました。

実際、私の師匠である片品村の鉄砲猟師のおじさま達からも、「自分が鉄砲撃ちを始めた頃は片品村の大型は乳類はツキノワグマとカモシカしかいなかった。で、キジ・ヤマドリなどの鳥撃ち猟が主だった。だんだん鳥が少なくなると、シカやイノシシが片品でも見られるようになってきたので、ここ20〜30年で大



▲ 銃を構える本間さん

物猟に変えた」という話を聞きます。もともと尾瀬にいなかったシカが増えてしまつて、生態系を守るために頭数管理しなければならなくなつていているという現実が目の前にあります。

鹿革の商品化にチャレンジ

都会のスーパーで野菜や肉を買う生活をしていると忘れてしまいがちですが、片品村に住んで、地元で穫れた野菜や、山に入り猟で捕つた動物を食べたりしている、「人はいのちをいただいて生きていく」ということを実感します。都会から尾瀬を訪れる多くの方に、その実感の一部でも感じてもらいたい。そして現状駆除され、廃棄されているだけのシカの命を少しでも活かしたい。そんな想いで、地元で捕獲・駆除された鹿革の商品化に取り組んでいます。私より以前から尾瀬で同じ問題に注目し、長蔵小屋の無料休憩所で鹿革製品の販売を行っていた福島県南会津町の小山抄子さんと、「尾瀬鹿プロジェクト」として約100万円の活動資金調達に挑戦し、尾瀬に関わる皆さまからのあたた

▼ 鹿革の製品



かいご支援をいただきました。今年はそのご支援をもとに、昨年冬に群馬県側で集めた約70枚の鹿革を活用し、「尾瀬鹿工房かたしな」として群馬県側の廃棄皮についても商品化をすすめています。鹿やイノシシの廃棄皮の商品化は全国各地で取り組みが始まっていますが、まだまだ一般の方に広くは認知されていません。尾瀬国立公園という多くの人が訪れる場所、気軽に手に取ってもらえる商品を発信する。それにより、各地でより多くの駆除された命が活用され、「日本の自然保護運動象徴の地」としての尾瀬を、尾瀬を知らない若い方や外国からの旅行

者の方などに知ってもらえる一つの機会になればいいなと思っています。

24年ぶりに復活！日光片品エクスプレス

今年の5月、日光市と片品村をつなぐ路線バスが復活しました。昭和40〜50年代まで観光客を中心に利用されていた路線ですが、マイカーへの移行により、平成4年に廃止に。しかし旅行形態が団体から個人旅行に変化し、公共交通機関を利用した旅行が年々増加していることから、日光市と片品村をつなぐ路線バスを復活させ、日光と片品の観光周遊環境を整備することになりました。5月20日から開始の「日光尾瀬周遊プラン」を利用すれば、8400円で浅草→日光→尾瀬→新宿を移動する事も出来るようになります。

交通網が発達し、日帰りで尾瀬を訪れるお客様も増えていますが、やはり尾瀬は駆け足でまわるよりもゆっくり味わつてこそ魅力を深く感じられる場所です。日光から金精峠を経て、菅沼・丸沼周辺を観光し、片品村の民宿に宿泊し、地元の料理や人とのふれ合いを楽しみ、尾瀬に向かう。本路線の復活により、そんな風になつくと地域の魅力を感じられる旅ができるようになります。また、片品を素通りするのではなく滞在してくれる方が増えることにより、村の雇用創出・若手人材の流出防止にも繋がります。しかしそのためには今の時代に合わせた情報発信が不可欠です。外から移住してきた私たちにとつて魅力的に感じる片品の独自の文化や特産品を、各隊員が色々な立場で発信をはじめられています。



体験旅行から食の盛り上げまで！多岐に渡る協力隊の活動

群馬県太田市出身の丸山隊員は、片品特産のトマトと大白大豆を使用した「尾瀬ラブラブすき焼き」レシピを考案。群馬県主催の「ぐんますき焼きコンテスト」で優秀賞を受賞しました。また、片品村が認定する特産品「尾瀬ブランド」を、役場の若手職員や片品村出身の切り絵作家と協力しパンフレットにまとめました。オシャレで村の雰囲気を感じてもらえる素敵なデザインに仕上がっています。片品を訪れた際にはぜひ尾瀬ブランドもチェックしてみてください。

東京出身の内野隊員は、移住前からのネットワークを使い村外での農作物や加工品の販売PRに従事。4月からは「村の産物屋かたしなや」で皆さんをお迎えします。かたしなやでは、特産の花豆ソフトクリームや、尾瀬びる（行者ニンニク）を入れたソーセージと地ビールのセットなどが楽しめます。尾瀬帰りに是非お立ち寄りください！

千葉出身の齊藤隊員は、得意の語学を活かして村の民宿の女将さんたちと英語塾を開いたり、留学生モニターツアー受入れなどを行いました。現在は村の日帰り温泉施設「花咲の湯」で観光・スキー帰りに温泉を訪れる多くの方をお迎えしています。花咲の湯はレストランも併設しており、片品産や群馬県産の地元こだわった美味しい食事を楽しむことができます。京都出身で尾瀬認定ガイドでもある岸畑隊員は、「尾瀬ツーリスト」で、村の豊かな自然を体験できるキッズキャンプや、新しい体験旅行メニューの創出に携わっています。今まで旅行者の方に知られずに素通りされてしまった片品村の文化や自然を、よ



り多くの方に楽しんでいただける形で発信していきます。

茨城出身・尾瀬認定ガイドの中村隊員は、片品村の花咲地区を中心に、地域の子ども達が自然の中で遊ぶ「森のようちえん」や、休耕地を再生し交流の場として活用するハーブガーデンなどの取り組みにあたっています。

また、「地方志向・移住思考」のある若者に片品村のことを知ってもらうため、片品村役場のホームページ内に移住者のインタビュー等をまとめた「移住情報ポータルサイト」すてきなカタシナ暮らし」を開設しました。今後、東京などで開催される移住相談会などでも積極的に発信を行っていきます。

片品村の一員として、自分の暮らしと村の未来をつくっていく

片品村は現在の推移のままでは人口が推移すると、計算上50年で人がいなくなってしまうそうです。年間雇用の仕事が多くなり村の付き合いが嫌で出て行ってしまおう若い人がいる一方で、協力隊だけでなく、一度都会に出たけれど積極的に片品に帰ってくる若者は少しずつ増えていきます。「10代や20代前半の頃は消防団や村の運動会なんかは面倒だと思ったけど、戻ってきて入ってみると結構楽しいし、地域にとって意味があるものだと気づいた」と話してくれた友人もいました。そんな仲間たちと、片品村のあたたかい先輩たちに支えられながら、少しずつ美しい「尾瀬の郷・片品村」で自分たちの暮らしをつくっていききたいと思います。

次回、檜枝岐村地域おこし協力隊へ続く



▲ 村の産物屋かたしな屋



尾瀬山の鼻ビジターセンター

尾瀬山の鼻ビジターセンターは、平成5年に群馬県によって設置され、尾瀬ヶ原の入口（西端）に位置しています。ビジターセンターのある山ノ鼻地区からは、花の百名山の一つに数えられる至仏山を間近に望むことができます。

建物正面の扉から入ると、動物たちがお出迎えて

くれます。直接手で触って感触を確かめてみてく

ださい。記念撮影もOK

です。（写真①）

最新の尾瀬情報を更新しています。

立体地図模型をみながら行程を確認してみてください。（写真②）



パソコンを使って植物や動物を調べることが

できます。鳥の鳴き声も検索してみてください。（写真③）

色々なコンテンツを展示していますので是非立ち寄りてみてください。（写真④）
皆さんの尾瀬ライフが広がると思います。



土日祭日の前夜は、レクチャールームにてスライドショーを実施しています。尾瀬の自然保護やクマの話など、他では聞けないような話をお楽しみいただけると思います。



ビジターセンターへ、ようこそ！

尾瀬沼ビジターセンター

尾瀬沼ビジターセンターは、昭和59年に環境省によって設置され、尾瀬沼東岸の会津沼田街道沿いに位置しています。ビジターセンターのある尾瀬沼地区からは、日本百名山の一つである燧ヶ岳を間近に望むことができます。またカウンターには職員が常駐し、尾瀬の自然についての情報提供を行っています。

この他にも尾瀬沼ビジターセンターでは、利用者の

皆様は尾瀬のことをより深く知ることができるよつシーズンを通して様々なイベントや企画展示を実施しています。毎朝9時30分より、手軽に自然と触れ合えることができる「尾瀬を感じるミニツアー」、土日祝日の前夜には宿泊者を対象とした夜のイベントなども実施しています。

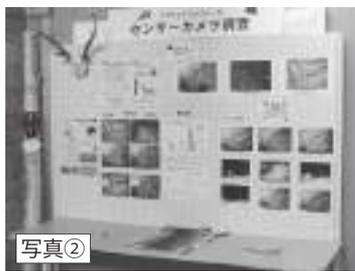
また、今年も展示が一部新しくなりました。その1つめは「尾瀬の植物そのひかりとかげ」（7月31日まで）で、尾瀬に本来ある植物を「ひかり」と表現し、尾瀬に入ってきた植物を「かげ」と表現しながら紹介しています。（写真①）植物のクイズ図鑑で知識を深めたり、ミンスパシヨウを折り紙で作成したりすることもできます。



2つめは「アクティブレンジャーのセンサーカメラ調査」で、環境省が実施するシカ対策や片品自然保護官事務所が実施している調査の結果などが展示され、今話題の尾瀬シカについて知ることができます。（写真②）

今後も様々なイベント・展示を開催していきますので、尾瀬にお越しの際には、ぜひ尾瀬沼ビジターセンターにお立ち寄りください。

さらに、尾瀬にお越しの際の情報収集には、尾瀬保護財団HPや尾瀬沼ビジターセンターのFacebookページをご覧ください。現地より最新情報をお届けしております。皆様とお会いできることを楽しみにお待ちしております。



原をわたる風たより 山の鼻ビジターセンターより

開所式がとり行われました

5月16日に山の鼻ビジターセンターでは開所式を迎え、尾瀬国立公園が本格的にシーズンを迎えました。

今年は積雪の無い開所式となり、昔から尾瀬に携わってきた山小屋のご主人たちは声をそろえて驚いていました。その影響か、例年は5月下旬から見頃を迎える尾瀬の代表的な花である



水芭蕉もすでに見頃を迎え、登山者は水芭蕉の開花情報を得たのかいつもより多く見受けられました。

また、この日はお天気にも恵まれ、開所式では前述の尾瀬ヶ原にある山小屋のご主人や、環境省の職員、この日居合わせた利用者の方など、たくさんの方に参加していただき、尾瀬ヶ原地区の交流を深める一日となりました。

(西澤 政春)

初めてだからこそ

感じるこのよさを感じる尾瀬

初めまして、本年度より山の鼻ビジターセンターで管理員として勤務しています大平卓と申します。私は今年度ここで勤務するまで尾瀬に来た事があ

りませんでした。自然環境の保全に興味を持っており、日本における自然保護活動の原点である尾瀬で実際に現場に立ちながら携わりたいと考え勤務することを希望しました。

そして、5月になり初めて足を踏み入れた尾瀬は、これまで生活してきたどの土地とも違う異世界のように魅力的な場所でした。広大な尾瀬ヶ原は毎日歩きたいと思わせてくれます。朝夕眺める尾瀬ヶ原からの朝露のかかった燧ヶ岳は言葉にできないほどの感動を与えてくれ、最も好きな景色の一つです。尾瀬に来てまだ2週間程度ですが、歩くたびに素晴らしい景色を見つめます。これからも沢山歩き、より多く尾瀬の魅力に触れたいと思います。

生活の面ではまず、携帯電話の電波がありません。時間さえあれば携帯電話を使っていた私にとっては多少のつまどいはありましたが、今ではその時間が外に出て歩き自然に触れ、多くの人と話す時間へと変わりました。また尾瀬の夜は真っ暗です。もちろんコンビニもありませんので便利な場所とはいえません。その代わり星空はどこよりも綺麗ですし、不便だからこそ様々な工夫をしながら生活を楽しむことができます。

このように私にとつての尾瀬での生活は全てが初体験で新鮮なものです。もちろんまだまだ未熟ですが、初めてだからこそ感じるこのよさを感じる尾瀬の素晴らしさや厳しさをより多く吸収し、ビジターセンターを訪れる人達に伝えていけたらと思います。

ビジターセンター管理員の業務は尾瀬の素晴らしさを伝えることだけでなく、保護や管理等を通じ自然環境保全に対する意識を啓発することもありま

す。私どもの活動を通して、訪れた人達に少しでも尾瀬の自然を保全することの大変さが伝わり、そして将来も尾瀬の自然が守り続けられるよう活動していきたいと思えます。シーズンは10月末までですが、よろしくお願ひいたします。

(大平 卓)

〈尾瀬沿ビジターセンターと

合同で集合写真〉



おごじよだより

尾瀬沼ビジターセンターより

それぞれの思い

こんにちは。今年も、元気で明るい新人職員が2人仲間入りして、ビジターセンターに新たな空気を入れてくれています。昨年から継続の先輩職員たちもよく新人をサポートしているのですが、今年も、昨年以上に素晴らしいビジターセンターになるのではと期待しています。

半年間、お客様が怪我することなく、素晴らしい尾瀬の思い出を心に刻んで帰路に着く、その手助けとなるビジターセンターでありたいと考えています。今年もどうぞよろしくお願ひします。
(阪路 善彦)

今年も、ほとんど雪がない状態での上山となりました。それにも驚かされましたが、何より驚いたのは、上山するとすでにミズバショウが見頃を迎えていたことです。まだ5月中旬なのに、周りの景色は6月上旬のようでした。昨年は多雪で悩まされ、今年は少雪で驚いています。これも自然のバランスなのだろうとも感じていますが、これが毎年のことにならないように願ひたいものです。尾瀬の自然にどんな影響があるのか、現地にいる職員として、しっかりと見届けていきたいと思ひます。
(宇野 翔太郎)

今年もまた尾瀬に戻ってきました。かれこれ、尾瀬のビジターセンターの



勤務は4年目となります。故郷の佐渡とは景色も文化も何もかも違いますが、尾瀬で活動している際に出会った人々や出会った風景、出来事などがとても多く全てが故郷と同じように愛しいものとなりました。

登山家の百瀬慎太郎が「山を思えば人恋し、人を思えば山恋し」と口にしていたように、ようやく自分自身もそんな思いの境地に至ったのだと思います。尾瀬に居られるシーズンは長いようで短いので、新たな挑戦や尾瀬で過ごす時間を大切にしながら、日々努力していきたいと思ひます。どうぞ、今年度もよろしくお願ひいたします。
(川上 藍)

今年も尾瀬沼ビジターセンターでお世話になります。昨年の半年間はあつという間に過ぎていき、見ることで



きなかつたお花や動物、歩くことのできなかつたルートがありました。今回は前回出会えなかつたオコジョや、尾瀬でしか見ることのできない植物を見ながら、尾瀬を歩いていきたいと思ひます。尾瀬の中で生活でき

る恵まれた環境を最大限生かして尾瀬の日々の変化を見逃さないようにしていきたいと思ひます。今年度もよろしくお願ひします。
(石塚 舞雪)



りの雪景色ではなく、すでに大江源は春の装いで出迎えてくれました。タ

テヤマリンドウ、シヨウジヨウバカマ、リュウキンカ：尾瀬を彩る花々達。

そんな装いの下、開館日より訪問客は適度に訪れ、尾瀬の気持ちの良い季節を嗜んでいます。早すぎる尾瀬の春に驚きはしたものの、幸先が良いと捉えて、昨年度との季節の移ろいの違いに注意を向けながらビジターセンターでの時間を過ごそうと思ひています。またビジターセンター全体で4年目の任務に就く管理員もいる中で新人の管理員さん達も加わり表情が新鮮になりました。経験者を信頼して、新しい管理員さんらの感性にも目を向けて過ごせたらと思ひています。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。
(穂坂 義人)

今年初めて尾瀬沼ビジターセンターに勤務することになりました、江崎花絵です。何度か一利用者として尾瀬を訪れ、尾瀬の大自然の素晴らしさのとりこになりました。尾瀬で働けることになり、喜びをかみしめながら生活しています。自分の大好きな尾瀬で生活できるとい

ことは本当に幸せなことです。そして日々変化していく風景は、初めて訪れたときと変わらない感動を与えて



くれます。その感動を皆様にたくさんお伝えできるように、努力していきたいと思ひます。目標は、尾瀬の植物博士になることです！皆様のお役に立てるように頑張ります。よろしくお願ひ致します。
(江崎 花絵)

今年度、尾瀬沼ビジターセンターで勤務させていただきまず清水です。尾瀬に来てから少し経ちますが、日々変わってゆく景色の早さに驚きつつ、ビジターセンターに来館される方の笑顔を見られることに幸せを感じる毎日です。様々な方からのお話や歩きながらの発見を繰り返しながら毎日の尾瀬を楽しんでおります。一年目ということまで至らない面が多くあるかと思ひますが、知ることでも生まれる新たな発見や視点、魅力などを多くの人に伝えていけるようこれから頑張ります。宜しくお願ひします。
(清水 千都)



○尾瀬保護財団 平成28年度事業計画

尾瀬保護財団の平成28年度事業計画が、本年3月15日に開催された第10回理事会で決定されました。主な事業計画は次のとおりです。

1 利用者啓発事業

(1) 入山者啓発事業

- ① 入山口啓発：入山マナーの啓発、利用案内、ごみの持ち帰り運動等を実施する。
- ② 尾瀬ボランティアの活動支援
- ア ボランティア活動の調整や研修会等を開催する。

イ ボランティア発足20周年あたり、一般に向けたPR活動を行い、認知度の向上を図る。

③ ガイド利用の普及・促進

ア ガイド利用を通じて、尾瀬の自然環境の保全と適正利用を図るため、尾瀬ガイド協会の運営を受託し、連携・支援する。

イ ガイド利用の魅力、有用性等を利用者に啓発し、普及を図るため、尾瀬自然解説ガイド(尾瀬ボランティアを母体とする)によるガイド活動を実施する。

(2) 自然解説事業

① 自然解説事業：自然解説活動を通じて、尾瀬の貴重な自然についての認識を深め、適正利用を促進する。

② 環境学習推進事業：「環境学習の場」としての利用促進を図るため、現地情報や学校の利用状況について情報発信を行う。

③ 尾瀬を知るための現地口講座：体験型の講座を開催する。

④ 地域の魅力PR事業：尾瀬の麓自治体等が地域資源を活かして魅力を企画・発信する取り組みに対し、PRの協力をを行う。

(3) 研修事業

- ① 指導者の養成：職員の資質向上を図り、指導者として養成するため、各種研修会に派遣する。
- ② 導入研修：新規職員を対象に、財団職員として

の心構え、業務内容及び国立公園制度等の研修を実施する。

③ 救急救命研修：現地に勤務する全職員に応急手当、AED操作訓練等の救急救命研修を実施する。

(4) 普及啓発事業

- ① 機関誌の発行：年4回発行
- ② 「わたしの尾瀬」フォトコンテスト、写真展等の開催

③ 啓発リーフレット等の作成・配布：外国語版「尾瀬国立公園案内マップ」の改訂増刷を行う。

④ ホームページの管理運営：外国語による案内を引き続き掲載し、特に英語サイトの発進力を強化する。

⑤ 尾瀬ガイドの実施：旅行者・スポーツ用品店を対象としたガイドを東京で実施する。

⑥ 出張講演の充実

⑦ 外国人入山者啓発
来訪する外国人入山者の現状を把握と、マナー啓発を行う。

2 環境保全事業

(1) 植生復元事業：至仏山東面登山道の植生復元及び保全事業を実施する。

(2) 至仏山保全対策：至仏山保全対策会議を活用し、至仏山保全基本計画に基づいて各種対策を実施する。

(3) 尾瀬シカ対策：関係県と連携してシカ対策に取り組む。

(4) 移入植物対策事業：移入植物の分布状況を把握し、必要に応じて除去活動を行う。

3 施設管理事業

- (1) ビジターセンターの管理運営
- (2) 公衆トイレの維持管理

4 調査研究事業

(1) 適正利用推進事業：「尾瀬ビジョン」の実現に向けて主体的に取り組む。ツキノワグマ対策については、「尾瀬国立公園ツキノワグマ対策協議会」の運営を行うとともに、出没した際の対策について関係者とともに取り組む。

(2) 尾瀬総合学術調査検討事業：前回の調査から

約20年経過し、その間の変化や現状が把握できていないため、再調査を行う時期にきている。平成27年度の検討内容を踏まえ、実施に向けた具体的な調査内容等を検討する。

5 顕彰事業

湿原に関する学術研究を奨励し、優れた業績を挙げた者に対して尾瀬賞を授与するため、第20回尾瀬賞の論文を募集する。

6 友の会等事業

(1) 友の会事業：特典の拡充や特別賛助会員のPRを図り、会員増加に努める。

(2) 寄付金の募集：公益財団法人への寄付税制の優遇措置制度を活用し、企業・団体等に対し積極的に寄付を募る。入山口横断幕の更新年あたり、広く支援を求める。

7 その他

(1) 尾瀬サミット2016の開催
開催日：8月30日(火)～31日(水) (予定)
開催場所：新潟県魚沼市

(2) 拡張地域における活動拠点の整備：昨年度に引き続き檜枝岐村内に臨時の事務所を設置する。

(3) 評議員会及び理事会の開催

(4) 受託事業：助成金の活用

○尾瀬の入山口(大清水)で「低公害車両の営業運行」を実施中(群馬県からのお知らせ)

特定の入山口への利用集中の緩和や、国立公園の回遊型・滞在型利用を促進するため、大清水口において、大清水(一ノ瀬間)に公共交通として低公害車の導入が検討され、数年にわたる関係者の協議や社会実験、試験運行を経て、平成27年度に引き続き、民間事業者による営業運行が実施されています。

一 期間

平成28年6月11日(土)～10月16日(日) (予定)
※路面整備や安全確保の状況により変更になる場合があります。

二 場所

大清水口

三 内容

- ① 区間：大清水～一ノ瀬（約3km）
- ② 時間：大清水5時（始発）～一ノ瀬16時30分（終発）

※注意：8月15日（月）～9月9日（金）の間の平日は大清水7時30分（始発）～一ノ瀬15時30分（終発）（事業者にご確認ください）。

- ③ 車両：低公害車両4台（13人乗り、9人乗り、4人乗り）
- ④ 所要時間：片道約15分程度
- ⑤ 運賃：大人700円、こども350円
- ⑥ 頻度：定時運行

⑦ 運行事業者：関越交通（株）、尾瀬観光タクシー（有）、老神観光バス、片品観光タクシー（有）

※歩行者優先で、速度を抑えて運行しています。
 ※混雑状況により、ご乗車できない場合もあります。
 ※低公害車両の運行に併せて、旧道（会津沼田街道）を開放しています。

【運行に関する問い合わせ先】

- 関越交通（株）鎌田営業所 TEL:0278-58-3311
- 尾瀬観光タクシー（有） TEL:0278-58-3152
- （株）老神観光バス TEL:0278-56-3222
- 片品観光タクシー（有） TEL:0278-58-2041

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動の様子を紹介いたします。



● 沼山峠ボランティア詰所を設置しました

6月9日（木）、沼山峠の入口横にボランティア詰所を設置しました。皆さまの活動の拠点として、ご利用ください。お話しボランティア活動の備品も、詰所内に用意しています。

● ごみ持ち帰り運動キャンペーンを実施しました

現在、尾瀬では年間を通じてごみ持ち帰り運動を実施しており、6月4日（土）には鳩待峠・大清水・沼山峠においてごみ持ち帰りキャンペーンを行いました。

今年は天候にも恵まれ、群馬県・福島県主催のもと、尾瀬ボランティアや企業・団体のみなさんのご協力により、入山者にごみ袋を配布し、ごみ持ち帰りの実践を呼びかけました。

▼ 活動の様子



● 至仏山東面登山道踏み出し防止柵の新設にCS2

至仏山東面登山道において、踏み出し防止柵の未設置箇所一に新たに柵を設置します。従来から行われてきた至仏山の植生回復作業が目標を達成し、一定の成果を挙げたことから、今後は、登山道を明確にし、登山者の立入規制と誘導を適切に行うことで植生の荒廃防止と植生回復を図ります。また、登山道の岩場のステップを切り、泥濘地では周辺の石を足場として配置するなどして、登山道を歩きやすくする補修も行います。

▼ 従来から実施している踏み込み防止柵の設置作業の様子（平成27年）



実施日：9月上旬～中旬頃（予定）
 ※専門家による検討委員会により設置場所を決定します。活動の詳細及び参加申込は後日ホームページでお知らせします。

● 「ありがとう尾瀬清掃活動」を実施します

折々に美しい表情をみせてくれる尾瀬。「今シーズンもありがとう、来シーズンもよろしく」という気持ちを込めて、左記のとおり清掃活動を実施します。尾瀬ボランティアのみなさんの参加申込をお待ちしています。

記

- 一 実施日および実施コース
- ① 平成28年9月3日（土）大清水～尾瀬沼コース
- ② 平成28年10月15日（土）尾瀬ヶ原コース・尾瀬沼コース
- ③ 平成28年10月23日（日）尾瀬ヶ原コース

▼ 平成27年の活動の様子



- 二 当日の携行品
 尾瀬ボランティア証、昼食、火ばさみ、ゴミ袋、軍手、雨具、帽子、スパッツ、防寒具等
- 三 荒天時の対応
 当日は雨天決行（大雨の場合は現地判断。台風等の悪天候の場合は中止。）
- 四 その他
 詳細は後日、申込者あて別途通知します。



寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「公益財団法人」に認定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りします。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度があります。詳細は財団事務局（群馬県庁15階・027-220-4431）にお問い合わせください。

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁15階・027-220-4431）にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

共和工業株式会社

代表取締役 松井恒雄

2016年4月7日寄付

共和工業株式会社 当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の保全に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で8回目となります。(通算寄付総額 1,400,000円)

寄付者からのメッセージ：共和は太陽光発電事業など自然保護を支援してまいります。

明日をもっとおいしく

meiji

2016年3月31日寄付

株式会社 明治 (株)明治様の群馬工場で使用される水の水源でもある、尾瀬の自然環境を後世まで守り、次代に繋げていくことで、社会そして子どもたちの未来に役立てていただきたいとの想いで、30万円のご寄付をいただきました。今回は3年にわたるご支援の3年目となります。(通算寄付総額 900,000円)

寄付者からのメッセージ：(株)明治は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。その一環として、尾瀬の貴重な自然環境が守られるための保全活動の一助になる事を期待し、寄付させていただきました。今回の寄付金が無効に活用され、尾瀬の美しい自然環境が未来へ引き継がれていく事を願い、支援を継続してまいります。

SAVE ON

2015年11月24日寄付

株式会社セーブオン 平成27年5月19日～6月30日および9月1日～13日の間、群馬、新潟、福島県内のセーブオン全店舗において、尾瀬環境保全募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。(通算寄付総額 6,751,550円)

寄付者からのメッセージ：(株)セーブオンでは、「尾瀬国立公園」が位置する群馬県・新潟県・福島県の店頭にて募金を実施し、多くのお客様に寄付をお寄せいただきました。ご協力頂いたすべてのお客様に深く感謝いたします。今後も、尾瀬の貴重な自然環境を後世まで永く守り続けるための活動を応援してまいります。

Asahi
アサヒビール株式会社

2015年9月30日寄付

アサヒビール(株)群馬支社 これまで継続してご支援をいただいていた「うまい!を明日へ!」プロジェクトによるご寄付は平成26年度で終了となりましたが、今後も当財団への支援を続けていきたいというアサヒビール群馬支社様のご厚意により、平成27年度は100万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 28,957,751円)

寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春から、全国活動の一環として群馬県内での売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただいてまいりました。今後は群馬支社独自の取り組みとしての寄付継続を含め、県民の皆様とともに環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役立ていただけたら幸いです。



Minakami Kogen
Hotel 200

2015年9月8日寄付

水上高原ホテル200 (水上高原リゾート株式会社) 水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを同社が経営されているホテル(水上高原ホテル200)で実施されており、その収益の一部として30万円のご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で4回目となります。(通算寄付総額 1,140,000円)

寄付者からのメッセージ：環境保全と共に尾瀬の雄大な自然と楽しさ・魅力を伝えて参ります。



2015年4月27日寄付

株式会社福島銀行 平成24年11月に発売された「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」の平成27年3月末現在残高の0.01%に相当する、1,024万円余のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 26,784,598円)
寄付者からのメッセージ：福島銀行は、中期経営計画「ふくぎん本気(マジ)宣言」の基本方針の中で、社会貢献の取組強化を掲げております。「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」では、お預け入れ頂いた同預金の年度末残高の0.01%相当額を尾瀬保護財団へ寄付させて頂いており、趣旨にご賛同頂いた多数のお客様より永年ご支持を頂いております。かけがえのない尾瀬の自然を守るため、福島銀行はお客様と共に、これからも積極的に保護活動に取組んで参ります。

尾瀬紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で收受した信託報酬の一部として総額525万円余りをご寄付いただきました。平成19年より今回が9回目のご寄付となります。(通算寄付総額 55,840,647円)



2015年11月9日寄付

第四証券株式会社 今年度は6万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 1,673,975円)
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



2015年10月26日寄付

DIAMアセットマネジメント株式会社 今年度は262万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額27,920,324円)
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。



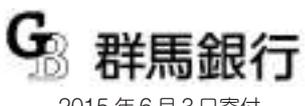
2015年10月21日寄付

株式会社第四銀行 今年度は41万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 5,893,897円)
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



2015年6月4日寄付

株式会社東邦銀行 今年度は82万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 9,802,859円)
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR(企業の社会的責任)を重視して取組んで参ります。



2015年6月3日寄付

株式会社群馬銀行 今年度は132万円余りをご寄付いただきました。(財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 28,701,952円)
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

株式会社読売旅行
2016年4月28日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、10万円のご寄付をいただきました。今回が3年わたるご支援の3年目となります。(通算寄付総額 300,000円)

株式会社フレッセイ
2016年4月28日寄付

フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円(両社で0.25円ずつ負担)をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、28万円余りをご寄付いただきました(平成25年9月~平成26年8月分の積立金)。エコ基金からのご支援は6回にわたり、今回が最終回となりました。(通算寄付総額 2,234,276円)

キリンビバレッジ株式会社
2016年4月28日寄付

フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円(両社で0.25円ずつ負担)をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、28万円余りをご寄付いただきました(平成25年9月~平成26年8月分の積立金)。エコ基金からのご支援は6回にわたり、今回が最終回となりました。(通算寄付総額 2,027,539円)

**一般財団法人
群馬県警察厚生会**
2016年4月11日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の美しい自然が後世の人々に引き継がれるよう活動に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成23年度から毎年ご寄付をいただき、今回で6回目となります。(通算寄付総額 600,000円)

株式会社とりせん
2016年2月15日寄付

当財団の自然保護活動に活用してもらいたいとの趣旨で、10万円のご寄付をいただきました(3年にわたるご寄付の3年目)。株式会社とりせん様からは、平成21年に株式会社とりせん創立60周年を記念して、環境保全に寄与するという目的で社員の皆様が募金活動を実施し、その収益をご寄付いただいております。同社からのご寄付は通算で4回目となりました。今後ともご支援をいただく予定です。(通算寄付総額 1,358,391円)

株式会社ニチネン
2015年7月17日寄付

株式会社ニチネン様が片品村の尾瀬工場(平成19年4月に設立)で生産し、販売するミネラルウォーター「尾瀬の湧き水」の収益の一部を、尾瀬の自然環境保全のために役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成19年度から毎年ご寄付をいただき、今回で9回目となります。

尾瀬の三二観察 ②6

ヒツジグサ：性転換する花（7-9月）

木道にかがんで花を間近から見てください。黄色い雄しべが四方に広がっている花(写真左)と、花の中央に集まっている花(写真右)があるはずです。

前者は開花初日の花で、中央に花粉を受ける透明な液があり、雌花の状態です。後者は開花2日目で、花粉を出した雄しべが花の中央に集り、雄花として機能しています。ヒツジグサは、同一の花が雌から雄に性転換して、近親婚になる同花受粉を避けているのです。

(フラワーエコロジスト 田中 肇)



イベント情報

第20回NHK「わたしの尾瀬」写真展

●胎内展

【開催期間】
平成28年

8月27日(土)～9月4日(日)
午前9時～午後6時
※休館日：期間中無休

【会場】

胎内市産業文化会館
(新潟県胎内市新和町2-5)
(TEL：0254-43-6400)

●新潟・中之口展

【開催期間】
平成28年

9月14日(水)～27日(火)
午前9時～午後4時30分
※休館日：20日(火)、26日(月)

【会場】

新潟市中之口先人館ギャラリー
(新潟県新潟市西蒲区中之口363番地)
(TEL：025-375-1112)

●佐渡展

【開催期間】
平成28年

10月1日(土)～10日(月・祝)
午前9時～午後5時
※休館日：3日(月)

【会場】

アミューズメント佐渡 エントランス
(新潟県佐渡市中原234-1)
(TEL：0259-52-2001)

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

※加入・更新時期が年4回（5月・8月・11月・2月）になりました

11月1日からの加入・更新をご希望の方は9月30日までに会費の納入をお願いします。

【年会費】

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
賛助	賛助会員 (団体 企業等)	1口 10,000円
	特別賛助会員 (団体 企業等)	1口 100,000円

【特典について】

※友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- 友の会会員バッチ進呈、各種資料送付（初回加入時のみ）
- 財団機関誌：配付（平成28年度は4回発行予定）
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引（休日、祝祭日前等の除外日があります。）
- 尾瀬周辺施設利用料割引：対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。

<https://www.oze-fnd.or.jp>

※特別賛助会員枠を新設しました

●●●● 編集後記 ●●●●

平成28年も尾瀬シーズンが始まりました。シーズンは始まったばかり、ということで表紙は一日の始まりである早朝の写真を選ばせていただきました。ニッコウキスゲが朝日に照らされ、とても美しいですね。今年は積雪量が少なかったことから、雪どけが例年になく早く、ミズバショウも早く顔を見せました。ミズバショウもびっくりしたことでしょう。今年はどうなシーズンになるのでしょうか。（佐藤）



(公財)尾瀬保護財団
スマートフォンサイト
情報配信中

緊急情報
お知らせ
ライブ映像
など

尾瀬の質問も受け付けています
ツイッター
尾瀬情報配信中

